

第 25 期 科学者委員会 研究評価分科会
第 3 回分科会議事要旨

1. 日時 令和 4 年 3 月 22 日（金） 10:00～12:00

2. 場所 オンライン会議

3. 出席者

武田洋幸委員長、三成美保副委員長、林隆之幹事、藤井良一幹事、松下佳代委員、
溝端佐登史委員、遠藤玉夫委員、古谷研委員、相田美砂子委員、木部暢子委員、
松中学委員

4. 資料

- ・資料 1 提言要約英語版
- ・参考 1 研究評価分科会委員名簿

5. 議題

(1) 公表した提言（2021 年 11 月 25 日公表）の活用について

・提言要約英語版について

資料 1 を元に三成先生より提言の「要旨」の英語版が完成していることが報告された。英語版を公表することについて分科会として承認した。今後さらに文言や形式の微修正を行う予定。最終版を分科会内で共有するとともに学術会議 HP で公表する。

・理化学研究所での提言の説明について

武田委員長が 2022 年 2 月 24 日開催の理研研究政策リトリートで提言の内容を説明したこと、その際の質疑応答の内容が報告された。

・人間文化研究機構の人文系の研究評価の提言について

木部委員より、3 月末までに人間文化研究機構から人文系の研究評価の提言が発表されること、この提言は本分科会が公表した提言をベースとしていることが報告された。

・図書館に関するポータルでの提言の紹介

三成副委員長より国会図書館ポータルで提言の内容を紹介したことが報告された。

<https://current.ndl.go.jp/e2476>

(2) 研究評価の最近の動向について

林幹事より研究評価の最近の動向について以下の4つの事項について報告があった。

1. 欧州での研究評価システム改革 --- オープンサイエンスの文脈での研究評価など
2. 文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会人文学・社会科学特別委員会

参考 第9回議事録

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/048/gijiroku/mext_00004.html

3. 国大協での英国の社会的インパクトの講演会
4. 文部科学省が実施した全国大学を対象とした教員評価の調査

(3) 今後の活動方針について

・武田委員長より以下の活動目標が提案され、審議の上了承された。

「海外での動向をにらみながら、政府・資金提供機関とも連携して、より具体的な研究評価の意見をだす。その過程で学術フォーラム、公開シンポジウムを企画する。」

・4月以降のより具体的な活動計画について

議論の出発点として、以下の3つのテーマについて、参考人をよんで意見交換を始める。

①個人評価・組織評価の在り方

国による大学、組織評価

個人の performance の評価と組織評価の関係

評価の妥当性（学術の振興になってるか）

ガバナンスの視点

②オープンサイエンスと研究評価、

欧州の動向、G7の分科会での議論

データサイエンスの専門家の評価

内閣府からの審議依頼と連携が可能なか

③人文社会と研究評価

個人の評価について基準の言語化

文部科学省での検討が始まっているので、早急に当分科会、文部科学省、3月に提言を
発出する人間文化研究機構の関係者で意見交換を開催する。